

# 社会福祉法人 ゆうのゆう 2013 年度事業報告書

(2013 年 4 月 1 日 ~ 2014 年 3 月 31 日)



1 . 総括	p. 3
2 . デーセンターモモの家	p. 4
3 . デーセンター機関車	p. 5
4 . デーセンター音・on	pp. 6-7
5 . デーセンター夢飛行	pp. 7-8
6 . ことのは	p. 8
7 . 被災地支援	pp. 9-10
8 . リサイクルショップ / 自主製品 / 利用者還元金	pp. 11-12
9 . 絵画	p. 13
10 . 車椅子ダンス	p. 14
11 . 後援会	p. 14
12 . 旅行	p. 15
13 . 医療的ケア	p. 16
14 . スタッフ体制	pp. 16-17
15 . 決算	p. 17

## 1：総括

2013年4月にオープンした「デーセンター音・on」が開所から一年を迎えました。利用者の日中生活を支える「第四の拠点」。地域にしっかりと根を下ろしていくにはまだまだ時間と労力を要しますが、自主製品販売やアートイベントの開催など、自分たちの「思い」を地域に向かってアウトプットしていく試みを地道に続けています。

その前年11月にオープンしたケアホーム「ことのは」も、初めての「1年間フル稼働」となりました。入居者個々での重度訪問介護利用による生活形態をとってきましたが、2014年度からのグループホーム一元化に伴い、今後どのような体制で入居者の生活を支えていくのかが喫緊の課題となっています。他方、「入居者」ではないものの、将来生活への対応が「待ったなし」という状況に置かれている利用者や家族の方々に、どのように寄り添い、共に生活を創っていくのか。単に利用者の「数」が増えるだけでなく、「幅広い世代」の利用者・家族と向き合っていかなければならない中で、グループホームはあくまでも数ある選択肢の「一つ」として相対化して考える必要性も生じています。

稼働を始めた新拠点ばかりでなく、それを「つくる」ための課題も山積みです。東日本大震災や高齢者グループホームで相次いだ火災事故等の影響を受けて、ここ数年来、福祉施設の新設に対する関係法令（建築基準法・消防法等）の適用が厳格化される傾向にあります。手狭となった生活介護施設の移転や拠点分離が急務となっている私たちにとっては、正しく行く手に立ちほだかる大きな壁です。

利用者の安全・安心とコンプライアンスの観点から言えば、「既存の物件を改修して利用する」という従来のやり方を見直し、「土地から借り上げて建物を新築する」等の選択肢も本格検討の必要があるでしょう。しかしそうすると、拠点整備費用の大幅増が避けられません。コストの大きさで言えば「送迎」や「人件費」も当然俎上に載せなければなりません。が、「拠点」「送迎」「人＝スタッフ」は、重い障害を抱えた利用者の地域生活を支え、創っていくためにはどれ一つとして欠くことができない活動の「柱」です。「コンプライアンス」という言葉は「法令・倫理遵守」と一般に訳されますが、「法令や倫理を遵守」することを通じて「自分たちの理念や使命を守る」という意味でも使われ始めています。自分たちが目指すものや、果たすべき責任と役割に対して「忠実でありたい」「真摯でありたい」と望むからこそ、ルールを守り、現実に即した形でこれらの「柱」を支えていく。それが今後の私たちに求められる「経営」の在り方なのかもしれません。

2014年6月10日

社会福祉法人 ゆうのゆう 代表理事 小林 美穂

## 2：デーセンターモモの家

### 活動状況：

2013年度は4月1日～22名、7月1日～21名の定員での運営となりました。4月1日から従たる事業所「デーセンター音・on」が正式にオープンし、利用者とスタッフを分散。それでもまだ施設内のスペースが充分になったとは必ずしも言えない状況ですが、心持ちゆとりが生まれ、日中活動やイベントごとの充実にも注力できた1年でした。

自主製品の分野では、絵画活動（ビー玉アート）から派生した新商品「団扇」と「扇子」を引っさげて、地域での各種物販イベントへ（EarthDay、てんまーと、JAIFA物販会、イオンモール物販会、市役所ロビー物販会、福島区民祭り、あいあい祭り等）も精力的に出店しました。また、通年のFBM（ファシリテーションボールメソッド）インストラクター養成講座を受講したスタッフによる発案で、定期的なFBMデーを設定しました。ファシリテーションボールを通じた利用者さんの心身へのアプローチは今後も工夫を重ねていく予定です。

### 年間行事：

【2013年】	
4月	入所式・新通所者さん／新人スタッフ歓迎会
5月	車椅子ダンス発表会・Earth Day ブース出店・福岡旅行・JAIFA物販会（中津ラマダホテル）
6月	絵本読み聞かせ・モモシネマ・車椅子ダンス茶話会
7月	滋賀旅行・避難訓練・外国人スタッフ歓送会・大阪歯科大実習受け入れ
8月	プール外出・イオンモール物販会出店・たこ焼きデー
9月	和歌山旅行・てんまーと出店・市役所ロビー物販会出店・福島区民祭日出店
10月	東京旅行 ・JAIFA物販会・グループ外出
11月	東京旅行 ・ポジティブ生活文化交流祭出店・誕生日会
12月	神戸旅行・クリスマス会・仮装大会・FBMデー・忘年会
【2014年】	
1月	初詣外出・成人のお祝い・FBMデー
2月	バレンタインデーイベント・車椅子バス観戦・あいあい祭日出店
3月	ホワイトデーイベント・選抜高校野球観戦・2013年度を振り返ろう会

### 3：デーセンター機関車

#### 活動状況：

2013年度の定員は前年度に引き続き13名のまま推移しました。現在も新拠点整備を最優先課題として位置付け、2014年度中の移転を目指して取り組んでいます。

一方で、地域との交流は昨年引き続き活発でした。自主製品でもビー玉アートを応用した新商品を意欲的に開発（爪切り、マグカップ等）。リサイクルショップも含めた売上金は過去5年間で最高額を記録することができました。

#### 年間行事：

【2013年】 4月	入所式・リラクゼーション
5月	車椅子ダンス・福岡旅行・Earth Day ブース出店・キカンシャシネマ
6月	車椅子ダンス茶話会・光陽特別支援学校実習受け入れ・誕生日会
7月	滋賀旅行・全員外出@舞洲・大阪歯科大実習受け入れ
8月	プール外出・グループ外出・キカンシャシネマ
9月	和歌山旅行・てんまーと出店・都島ふれあいフェスタ参加
10月	東京旅行・誕生日会・グループ外出
11月	東京旅行・ポジティブ生活文化交流祭出店・もちもち感謝祭参加
12月	神戸旅行・クリスマス会・キカンシャシネマ
【2014年】 1月	初詣外出・成人のお祝い・誕生日会
2月	節分イベント・バレンタインデーイベント・車椅子バス観戦
3月	ひな祭り・ホワイトデーイベント・選抜甲子園観戦

### 4：デーセンター音・on

#### 活動状況：

法人にとっては第4の日中活動拠点として、2013年4月1日より正式にオープンしました。定員数は12名（4月1日～）13名（7月1日～）で推移しています。利用者もスタ

ップも新天地での日常生活、地域とのつながりをどのように構築していこうかと試行錯誤しながらの1年間でした。

そのような中でも、手作りキャンドル製品「Candon (Candol + on)」を開発して地域イベントに出店・納品したり、整備途上の施設2階にて「アウトサイダー『書』展」という芸術イベントを開催するなど積極的な地域との関係作りに取り組みました。2014年度は、2階部分の活用方法を検討しつつ、より地域に根差した存在としての認知を得るべく、近隣の学校などとも関係構築に取り組んでいきます。

### 年間行事：

【2013年】	入所式・on シネマ
4月	入所式・on シネマ
5月	車椅子ダンス発表会・福岡旅行・Earth Day ブース出店
6月	車椅子ダンス茶話会・on シネマ・西淀川特別支援学校実習受け入れ
7月	滋賀旅行・大阪歯科大実習受け入れ
8月	アウトサイダー「書」展開催・夏祭り Week・プール外出
9月	和歌山旅行・てんまーと出店・御堂筋ふれあいバザー出店
10月	東京旅行 ・グループ外出・外国人スタッフ歓迎会
11月	東京旅行 ・ポジティブ生活文化交流祭出店・誕生日会
12月	神戸旅行・クリスマス会・おやつパーティ・忘年会
【2014年】	初詣外出・成人のお祝い・誕生日会
1月	初詣外出・成人のお祝い・誕生日会
2月	バレンタインデーイベント・車椅子バス観戦・イチゴ大福づくり
3月	ひな祭り・選抜高校野球観戦・ホワイトデーイベント



## 5：デーセンター夢飛行

### 活動状況：

2013年度は4月1日～34名定員、7月1日～32名定員による運営となりました。デーセンター機関車と同様、早急な新拠点整備と人員の分散が喫緊の課題となっています。

自主製品の販売、リサイクルショップ活動、絵画活動（ビー玉アート）は前年度に引き続き精力的に展開しました。自主製品販売では西成区役所ロビーにて「福祉の店」という毎月固定の販路を開拓。新商品「プラ板アクセサリー」の売上も好調です。リサイクルショップでは、交流のある就労支援事業所と提携して軒先での野菜販売（週1回）を定着させたほか、近隣の様々なお店との関係づくりを目的とした「ショップ外出」を企画。「地域に愛されるショップ」を目指した取り組みを継続しています。絵画活動では、スタッフの友人から、結婚式の招待状・席次表・席札・ウェディングツリーなど一式をビー玉アートで制作受注。地域の歯科医院からは、「絵画」としてのビー玉アートを「リース」してほしいとの申し出もいただき、絵画活動の可能性を一層広げています。こうした一年間の努力が実り、2013年度も利用者還元金となる活動の売上金総額は過去最高記録をマークしました。

また、被災地支援・交流活動の一環として、宮城県石巻市から重症心身障害当事者とその家族の訪問、現地派遣スタッフを介した岩手県宮古市の重心当事者・家族とのスカイプによる遠隔地交流、被災地の自主製品（食品中心）販売などにも取り組みました。

### 年間行事：

【2013年】 4月	入所式・「書」のワークショップ
5月	車椅子ダンス発表会・福岡旅行・Earth Day ブース出店
6月	車椅子ダンス茶話会・住吉中学校福祉体験受け入れ
7月	滋賀旅行・大阪歯科大実習受け入れ・天下茶屋中学校職業体験受け入れ・七夕祭り
8月	納涼 Week・石巻重心当事者訪問見学受け入れ・国際文化教室
9月	和歌山旅行・てんまーと出店
10月	東京旅行 ・野菜販売@ショップ開始・消防訓練
11月	東京旅行 ・ポジティブ生活文化交流祭出店・受注絵画お届け外出
12月	神戸旅行・クリスマス会・ゆめ風基金へ寄付金お届け外出
【2014年】	初詣外出・成人のお祝い・西成区役所「福祉の店」出店開始・岩手

1月	県宮古市「ココロつなぐ会」との Skype 交流
2月	バレンタインデーイベント・車椅子バスケ観戦・誕生日会
3月	選抜高校野球観戦・誕生日会・ホワイトデーイベント

## 6：ことのは

### 活動状況：

入居者7名にとっては、初めて一年間を通じたケアホームでの生活となりました。月～金はことのはにて起居し、土日祝は実家で過ごすというリズムもすっかり定着しました。また、世話人2名体制による朝・夕の家事支援がスタート。日中を過ごす生活介護施設とは別に、ケアホームでの年中行事（誕生日会やクリスマス会、忘年会など）も開かれるようになり、より「家庭」に近い生活環境の整備が充実してきています。バレンタインデーやホワイトデーには、普段お世話になっている係りつけの病院やご近所へもギフトのお届けに入居者自身が伺うようになったほか、自治会との関係も良好で、一層地域に根付いたケアホームとしての位置付けを確かなものにしつつあります。

一方2014年度からはケアホームがグループホームに一元化されるため、それに伴う様々な制度改定への対応が運営上の課題となります。



## 7：被災地支援活動

2013年度からの被災地支援活動は、これまで取り組みの中心としてきた「被災地障害者センターのサポート」という段階から一歩踏み込み、「現地の重症心身障害者への支援」を柱とした私たち独自のアプローチを推進していくことになりました。



### (1)大阪での取り組み

宮城県石巻市からの重心当事者大阪訪問の受け入れのほか、岩手県宮古市の就労支援事業所（「ワークハウス・アトリエ Sun」等）で作られた自主製品を各種イベントで販売したり、同じく宮古市在住の重心当事者・家族で構成される「ココロつなぐ会」のメンバーとスカイプを利用した遠隔地コミュニケーションを試みるなど、「大阪にいながらでもできること」として、利用者と一緒に活動を盛り上げました。



### (2)岩手県沿岸北部での活動～「ココロつなぐ会」等との関係構築

スタッフの継続的な現地派遣により、「ココロつなぐ会」メンバーである重心当事者・家族との関係構築に注力しました。10月には岩手県社協や宮古市中心部の障害者支援団体等が主催する「みやこはあとふるフェスタ」にもスタッフを派遣。スヌーズレンコーナーや車椅子スラローム大会といった行事自体のサポートのほか、重心当事者のご家族に対す派遣スタッフによる講話会なども実施しました。NPO法人格を取得した「被災地障がい者センターみやこ」（現・NPO法人結人＝ゆいっと＝）との



関係維持、前年度に引き続き敢行された「みちのく TRY 2nd」への支援派遣といった従来の支援活動の延長線上にある取り組みにも継続的に関わりました。

### (3)岩手県沿岸南部・内陸部での活動～「ふれ～るプロジェクト」への参画

利用者さんやご家族、スタッフ、後援会員等より募った義援金（約 180 万円）を活用して企画・実施された「ふれ～るプロジェクト」（NPO 法人響生＝ひびき / 岩手県一関市＝が主体となって推進した、被災沿岸部在住の重症心身障害児・者とそのご家族間での交流促進を目的とした体験型プロジェクト）。その集大成となる一泊二日のプログラムが 11 月に実施されるのに合わせて、スタッフを現地派遣しました（宮城県気仙沼市）。



一関市の重心当事者・家族の団体「ぼけっとの会」のメンバーのほか、沿岸南部に位置する大船渡市と陸前高田市、さらに内陸の盛岡市からも重心当事者・家族が参加。主催側のスタッフも合わせると総勢約 50 名による一大イベントになりました。気仙沼市内のホテルに宿泊しながら、プロジェクト名称の由来にもなった「ふれ～る体操」（静的弛緩誘導法という動作法の一種）などの体験型プログラムのほか、当法人派遣スタッフによる講話会、夕食会を兼ねた交流会などを実施。貴重な関係構築の機会となりました。



2014 年度は「赤い羽根共同募金」からの助成を受けることが決定しており、現地重心当事者・家族の大阪招聘をはじめ、現地での活動拠点整備やネットワーク構築をさらに具体的に推進していきます。



## 8：リサイクルショップ・自主製品・利用者還元金

### リサイクルショップ・自主製品

前年度に引き続き、2013年度もビー玉アートを応用した自主製品の開発、販売に積極的取り組みました。Earth Day という大規模なイベントへのブース出店のほか、手作りクラフトの青空市「てんまーと」や西成区役所ロビー「福祉の店」への定期出店など、販路の開拓が進みました。また、デーセンター夢飛行のリサイクルショップでは、提携している他の就労支援事業所と協働で軒先野菜販売を週1回ペースで実施。チラシのポスティングなどを通じて既に常連客も付き始めており、地域とのつながりをさらに深めています。

### 利用者還元金：

「実習生を指導するのはスタッフばかりでなく利用者さん本人である」との考え方にに基づき、これまでその実習費収入を利用者還元金に充ててきた「ヘルパー2級実習受け入れ」が、制度改定（「介護職員初任者研修」への移行）により廃止となりました。この大幅な収入「減」を補う意味でも、2013年度はリサイクルショップ・自主製品販売・絵画受注といった活動に大いに注力した1年でした。結果、売上金は前年度を上回る約107万円（前年度＝約88万円）となり、大阪歯科大学実習受け入れ費用を合わせると、ヘルパー2級の実習受け入れを実施していた前年度と比べても遜色ないものとなりました。

一方で利用者の人数は増え続けており（過去5年間で40名以上の増）、利用者一人当たりが受け取る金額自体は9602円と1万円を割り込



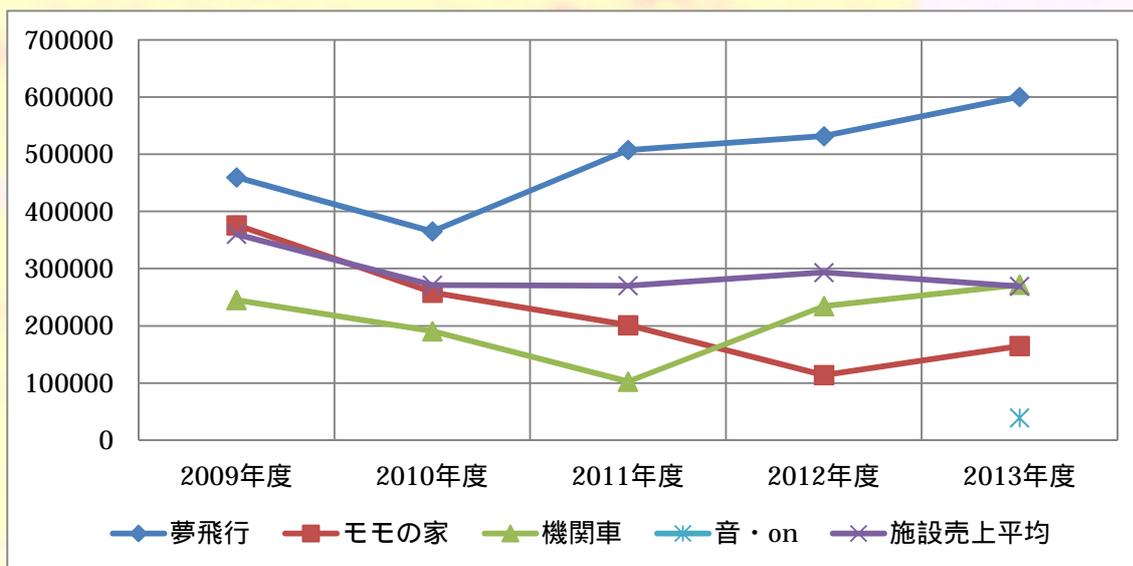
んでしまう形となりました。今後、各施設間での有用な情報共有や相互アドバイスの仕組みを築くことにより、この経済活動を通じた地域へのアプローチをより活性化させ、結果としての売上、利用者還元金の「増」を目指していきます。

【利用者還元金の内訳 ( )内は前年度】

	モモの家	機関車	音・on	夢飛行	施設合計	利用者数
ショップ・自主製品・絵画売上	164776 円 (113970 円)	271926 円 (234651 円)	39308 円	600413 円 (531859 円)	1076423 円 (880480 円)	116 名 (105 名)
歯科大実習	15000 円	7500 円	0 円	15000 円	37500 円	
合計	179776 円 (202470 円)	279426 円 (270651 円)	39308 円	615413 円 (641359 円)	1113923 円 (1114480 円)	

1 名当たりの還元金額 = 9602 円 / 人 (前年度 = 10610 円 / 人)

【各施設売上金の推移】



## 9： 絵画

前年度、全国規模のアートフェアに応募～入選という実績を残して以降、ビー玉アートを通じた「情報発信」や「共感・理解の広がり」に重点を置くスタンスが定着しました。その点を踏まえ、2013年度の絵画活動では、「互いの顔が見える関係」に比重を置き、その分だけ「着実」で「息の長いつながり」と「共感・理解の浸透」に努めました。

スタッフの友人から、結婚式で用いる招待状・席次表・席札・ウェディングツリー等の紙製品一式の発注をいただいた際には、まずその友人に私たちの施設を訪れて、注文の品を制作する利用者・スタッフと直に顔を合わせてもらうところから始めました。地域の歯科医院からビー玉アート作品の

「リース契約」を申し出ていただいた際にも、出来上がった作品は、利用者とスタッフが直接発注元の歯科医院に伺ってお届けするようにしました。

こうした絵画（ビー玉アート）の受注制作は、売上金～利用者還元金増への貢献はもちろん、その根幹にある私たちの取り組みへの「共感と理解」をより確かなものにするツールとして、今後も大きな可能性を秘めていると言えるでしょう。



## 10：車椅子ダンス

毎年各施設の希望者の中から選抜されたメンバーが、1年間、月1回の合同練習を重ねて、発表会でその成果を披露します。2013年度に発表会の日を迎えたメンバーは第7期生。「オペラ座の怪人」「ヘビーローテーション(AKB48)」「ディズニーミュージックメドレー」と3つの演目でギャラリーの目を惹きました。2013年度に編成された新メンバーたちは第8期生として2014年度の発表会に挑みます。

施設を超えて利用者とスタッフが一つのことに取り組む貴重な機会である一方、スタッフのダンススキルや演出力向上にどのような方向性を持たせ、活動としての展開像を描いていくかが課題となっています。



## 11：後援会

延べ会員数は約1200名ですが、逝去等による退会もあり、現員数としては1000名程度。近年は特に新規入会の会員数が伸び悩んでいます。現在、生活介護施設新拠点の設立(デーセンター夢飛行の従たる事業所として想定)とデーセンター音・onの2階部分整備、そして一度頓挫してしまったデーセンター機関車の移転といったハードウェア面での大きな課題が控えています。また、腰痛に悩まされるスタッフが近年増加傾向にあり、天井走行式や自走式のリフト導入を進めているところでもあります。福祉制度の行方が混沌とする中、多くの方々に私たちの活動を支えていただくことの重要性は日増しに高まる一方です。そして、使途自由な運営費の確保もまた欠かせません。

しかし他方、友人・知人等に呼びかけ、後援会員を勧誘・獲得できる関係者やスタッフは全体のごく一部です。「後援会員の獲得」=「私たちの活動に対する理解・共感を財政面の充実に結び付けること」 スタッフ一人一人に、自らの仕事や利用者さんたちのことを「言葉」にして発信していく姿勢と実践がより一層求められます。

## 12：旅行

希望旅行先アンケートの結果、東京希望者が多数であったため、東京旅行を2回に分ける結果となり、都合6回の旅行を催行しました。

行先	参加利用者数	参加家族数
福岡（5月）	17名	7名
滋賀（7月）	12名	0名
和歌山（9月）	18名	9名
東京（10月）	14名	6名
東京（11月）	15名	6名
神戸（12月）	10名	0名
合計（0内は前年度）	86名(77名)	28名(30名)

2013年度は「五感で感じる」というテーマのもと、それぞれの行程では「触れる」「体験する」ことを重視した企画を組みました。特に滋賀旅行での「キャンプ」が好評で、早くもリピートを望む声上がるほどでした。一方で、旅行担当スタッフによる下見の在り方＝費用対効果の問題や、利用者増加に伴って大規模化する個々の旅行への対処など、解決すべき課題も山積しています。「思い出づくり」のクオリティ向上はもちろんのこと、安全面、予算面での周到な企画力が旅行担当スタッフには求められます。



### 13：医療的ケア

近年、医療的ケアを必要とする新規利用者自体が増加傾向にあり、既に通所している利用者についても、加齢や障害の進行等により新たに医療的ケアが必要となるケースが増えています。前年度からは「社会福祉士及び介護福祉士法」の一部改正が施行され、痰の吸引や経管栄養注入といった行為を一定の要件を満たした介護職員が実施できるようになりました。法人としても、スタッフに必要な研修(「喀痰吸引等基本研修/実地研修」)を受けさせ、これに対応すべく態勢を整備しています。



一方、研修を終えたスタッフについては、自分たちのケアが「治療」を目的とした「医療行為」ではなく、あくまでも「生活支援の一手段」としての「医療的ケア」なのだという自覚を失うことなく日々の業務に当たることが不可欠です。医療的ケアの実施環境整備と同時に、スタッフの一人一人が、重症心身障害者支援の目的と意味を自問自答し続けることができる「職場風土」の維持・醸成が今後も課題となります。



### 14：スタッフ体制

2013年度も、人員配置(スタッフ：利用者)としては「1：1.7」の基準を維持することができましたが、依然、男性利用者が増加傾向にあり、入浴・排泄については「同性介助」を前提としている以上、男性スタッフの不足は否めません。景気の上向きに伴い、一般企業も社員の積極採用に乗り出す中、人材確保に向けた「職場」としての競争力を高めていくことが求められています。腰痛予防のための設備導入と利用勧奨、キャリアパスの体系化・可視化等、「仕事を長く続けることができる」環境整備を推進すると同時に、「仕事の魅力」をより効果的に伝える採用活動の工夫が必要不可欠です。

一方で、ケアホームの本格始動、新人スタッフに限定しないスタッフ交換研修実施(法人内他施設でのOJT)、一つのブースを全部署のスタッフで切り盛りする自主製品販売機会

の増加、車椅子ダンスの活動継続等によって、組織拡大の結果急務となっている「施設＝部署を超えた法人スタッフ」としての意識醸成は、一歩ずつではありますが、着実に進んでいるように感じます。

今後、被災地支援活動の継続やショップ・自主製品販売・絵画受注制作の活性化、後援会を初めとするファンレイジング活動等、利用者への直接的な日常生活支援「+」の取り組みを充実させていくに当たっては、そうした「法人スタッフ」としての意識に担保された「法人全体のコンセンサス」形成が欠かせません。組織の規模が大きくなればなるほど、その難易度は高くなる一方ですが、課題を一つ一つ解決していくことでその困難をも乗り越えて「魅力ある組織」「必要とされる組織」を目指していきます。

## 15：決算

# 事業活動収支計算書

自平成 25 年 4 月 1 日 至平成 26 年 3 月 31 日

社会福祉法人 ゆうのゆう

(単位：円)

勘 定 科 目		本年度決算	前年度決算	増 減	
事業活動収支の部	収 入	運営費補助金収入	0	3,000,000	-3,000,000
		自立支援費等収入	339,354,240	288,022,400	51,331,840
		利用料収入	5,193,868	1,545,690	3,648,178
		寄付金収入	432,596	741,598	-309,002
		雑収入	3,475,697	1,648,468	1,827,229
		受取利息収入	10,970	13,980	-3,010
		国庫補助金等特別積立金取崩額	2,215,977	1,920,584	295,393
	事業活動収入計	350,683,348	296,892,720	53,790,628	
	支 出	人件費支出	258,843,279	212,888,206	45,955,073
		事務費支出	2,664,134	2,131,660	532,474
事業費支出		103,273,301	81,815,451	21,457,850	
事業活動支出計		364,780,714	296,835,317	67,945,397	
事業活動収支差額		-14,097,366	57,403	-14,154,769	
事業活動外収支の部	収 入	経理区分間繰入金収入	43,692,453	38,560,897	5,131,556
		事業活動外収入計	43,692,453	38,560,897	5,131,556
	支 出	経理区分間繰入金支出	43,692,453	38,560,897	5,131,556
		支払利息支出	192,920	0	192,920
		事業活動外支出計	43,885,373	38,560,897	5,324,476
	事業活動外収支差額		-192,920	0	-192,920
経常収支差額		-14,290,286	57,403	-14,347,689	
特別収支差額の部	収 入	施設整備等補助金収入	5,000,000	0	5,000,000
		施設整備等寄付金収入	19,000,000	0	19,000,000
		特別収入計	24,000,000	0	24,000,000
	支 出	国庫補助等特別積立金積立額	5,000,000	0	5,000,000

	特別支出計	5,000,000	0	5,000,000
	特別収支差額	19,000,000	0	19,000,000
	当期活動収支差額	4,709,714	57,403	4,652,311
繰越活動収支差額の部	前期繰越活動収支差額	133,567,475	133,512,591	54,884
	当期末繰越活動収支差額	138,277,189	133,569,994	4,707,195
	基本金取崩額			0
	基本金組入額		2,519	-2,519
	その他の積立金取崩額			0
	その他の積立金積立額			0
				0
	次期繰越活動収支差額	138,277,189	133,567,475	4,709,714

# 貸借対照表

社会福祉法人ゆうのゆうかい

平成 26 年 3 月 31 日現在

(単位：円)

資 産 の 部				負 債 の 部			
	当年度末	前年度末	増 減		当年度末	前年度末	増 減
流動資産	102,800,189	113,580,300	-10,780,111	流動負債	15,710,377	14,616,669	1,093,708
現金預金	44,406,433	46,915,409	-2,508,976	預り金	6,678,630	5,090,488	1,588,142
未収入金	57,536,909	49,246,562	8,290,347	未払金	7,631,747	5,207,729	2,424,018
仮払金	307,417	16,974,200	-16,666,783	仮受金	1,400,000	4,318,452	-2,918,452
立替金	549,430	444,129	105,301				
固定資産	109,269,854	78,681,422	30,588,432	固定負債	33,106,168	21,800,000	11,306,168
基本財産	10,087,811	10,085,292	2,519	長期借入金	21,800,000	21,800,000	0
基本財産定期預金	10,087,811	10,085,292	2,519	リース債務	11,306,168	0	11,306,168
その他の固定資産	99,182,043	68,596,130	30,585,913	負債の部合計	48,816,545	36,416,669	12,399,876
建物附属設備	61,612,009	54,511,575	7,100,434	純 資 産 の 部			
構築物	499,023	531,567	-32,544	基本金	10,000,000	10,085,292	-85,292
車輛運搬具	3,063,793	5,046,351	-1,982,558	基本金	10,000,000	10,085,292	-85,292
器具備品	2,264,182	2,706,637	-442,455	国庫補助金等			
有形リース資産	11,219,636	0	11,219,636	特別積立金	14,976,309	12,192,286	2,784,023
保証金	16,448,400	5,800,000	10,648,400				
長期前払費用	4,075,000	0	4,075,000	次期繰越活動			
				収支差額	138,277,189	133,567,475	4,709,714
				次期繰越活動			
				動収支差額	138,277,189	133,567,475	4,709,714
				(うち当期活動			
				動収支差額)	4,709,714	57,403	4,652,311
				純資産の部合			
				計	163,253,498	155,845,053	7,408,445
資産の部合計	212,070,043	192,261,722	19,808,321	負債及び純資			
				産の部合計	212,070,043	192,261,722	19,808,321

脚注

減価償却累計 41,189,096 円

## 資金収支計算書

自平成 25 年 4 月 1 日 至平成 26 年 3 月 31 日

社会福祉法人 ゆうのゆう

(単位:円)

勘 定 科 目		予 算	決 算	差 異	備 考	
経常活動による収支	収	運営費補助金収入	0	0		
		自立支援費等収入	334,105,000	339,354,240	-5,249,240	
		利用料収入	5,745,000	5,193,868	551,132	
		寄付金収入	500,000	432,596	67,404	
		雑収入	3,088,000	2,988,877	99,123	
		受取利息収入	10,000	8,451	1,549	
		経理区分間繰入金収入		39,803,046	-39,803,046	
		経常収入計	343,448,000	387,781,078	-44,333,078	
	支	人件費支出	259,328,000	258,843,279	484,721	
		事務費支出	2,631,000	2,664,134	-33,134	
		事業費支出	89,970,000	91,682,118	-1,712,118	
	支払利息支出	200,000	192,920	7,080		
	経理区分間繰入金支出		39,803,046	-39,803,046		
	経常支出計	352,129,000	393,185,497	-41,056,497		
	経常活動資金収支差額	-8,681,000	-5,404,419	-3,276,581		
施設整備等による収支	収	施設整備等補助金収入	5,000,000	5,000,000	0	
		施設整備等寄付金収入	18,000,000	19,000,000	-1,000,000	
		保証金返還収入		110,000	-110,000	
		施設整備等収入計	23,000,000	24,110,000	-1,110,000	
	支	固定資産取得支出	27,500,000	27,641,756	-141,756	
		保証金支出		258,400	-258,400	
		ファイナンス・リース債務の返済支出	2,000,000	1,936,680	63,320	
	施設整備等支出計	29,500,000	29,836,836	-336,836		
	施設整備等資金収支差額	-6,500,000	-5,726,836	-773,164		
	長期借入金による収入		0	0		

財務活動等による収	収入	旅行預り金収入	7,300,000	7,182,516	117,484
		財務収入計	7,300,000	7,182,516	117,484
	支出	長期借入金返済による支出		0	0
		旅行預り金支出	7,300,000	7,925,080	-625,080
		財務支出計	7,300,000	7,925,080	-625,080
	財務活動資金収支差額		0	-742,564	742,564
予備費					
当期資金収支差額合計		-15,181,000	-11,873,819	-3,307,181	

前期末支払資金残高	98,963,631	98,963,631	0
当期末支払資金残高	83,782,631	87,089,812	-3,307,181

社会福祉法人現況報告書  
平成 26 年4月1日現在

I 基本情報

所轄庁	市		〒 553 - 0006	大阪市福島区吉野4- 27- 10	電話番号	06 - 6465 - 9133	FAX番号	06 - 6465 - 3301	
法人名	社会福祉法人ゆうのゆう		主たる事務所の所在地	〒 553 - 0006 大阪市福島区吉野4- 27- 10		電話番号	06 - 6465 - 9133	FAX番号	06 - 6465 - 3301
ホームページアドレス	<a href="http://www.yourwing.org">http://www.yourwing.org</a>		メールアドレス	<a href="mailto:info@yourwing.org">info@yourwing.org</a>		設立認可年月日	平成13年10月24日		
代表者	氏名	年齢	住所	職業	就任年月日				
	小林美穂	非公表	非公表	福祉施設職員	平成17年3月24日				

II 事業

社会福祉事業	種類	施設名・事業所名	公表/非公表	所在地	事業開始年月日	定員	実施形態	
							各分野の事業が同一施設(敷地)で実施	全ての事業が同一施設(敷地)で実施
児童福祉	第一種							
	第二種							
老人福祉	第一種							
	第二種							
障害者福祉	第一種							
	第二種	障害福祉サービス事業	公表	大阪市福島区吉野4- 27- 10	平成13年11月1日	53		
		障害福祉サービス事業	公表	大阪市西成区岸里1- 5- 25	平成13年11月1日	32		
その他	第一種							
	第二種							

公益事業	種類(番号を記載)	施設名・事業所名	所在地	事業開始年月日	事業規模(定員)

- 必要な者に対し、相談、情報提供・助言、行政や福祉・保健・医療サービス事業者等との連絡調整を行う等の事業
- 必要な者に対し、入浴、排せつ、食事、外出時の移動、コミュニケーション、スポーツ・文化的活動、就労、住環境の調整等を支援する事業
- 入浴等の支援が必要な者、独力では住居の確保が困難な者等に対し、住居を提供又は確保する事業
- 日常生活を営むのに支障がある状態の軽減又は悪化の防止に関する事業
- 入所施設からの退院・退所を支援する事業
- 子育て支援に関する事業
- 福祉用具その他の用具又は機器及び住環境に関する情報の収集・整理・提供に関する事業
- ボランティアの育成に関する事業
- 社会福祉の増進に資する人材の育成・確保に関する事業(社会福祉士・介護福祉士・精神保健福祉士・保育士・コミュニケーション支援者等の養成事業等)
- 社会福祉に関する調査研究等
- 事業規模要件を満たさないために社会福祉事業に含まれない事業
- 介護保険法の居宅サービス事業、地域密着型サービス事業、介護予防サービス事業、地域密着型介護予防サービス事業、居宅介護支援事業、介護予防支援事業、介護老人保健施設地域支援事業を市町村から受託する事業
- 有料老人ホーム
- 社会福祉協議会等において、社会福祉協議会活動等に参加する者の福利厚生を図ることを目的として、宿泊所、保養所、食堂等を経営する事業
- 公益的の事業を行う団体に事務所等として無償又は実費に近い対価で使用させるために会館等を経営する事業
- その他 ( )

収益事業	種類(番号を記載)	施設名・事業所名	所在地	事業開始年月日	事業規模(定員)

- 法人の所有する不動産を活用して行う貸ビル
- 駐車場の経営
- 公共的、公共的施設内の売店の経営
- その他 ( )

その他の事業	種類(番号を記載)	施設名・事業所名	所在地	事業開始年月日	事業規模(定員)

- 介護保険、障害福祉サービス等における低所得者の利用者負担減免
- 地域の単身高齢者等を対象とした見守り・配食サービス等の実施
- 地域の単身高齢者等を対象とした各種相談事業の実施
- 災害時における各種支援活動の実施
- 貧困・生活困窮者等を対象とした住宅の斡旋、食事提供等の生活支援の実施
- 他法人との連携による人材育成事業
- その他 ( )

Ⅲ 組織

理事	定員 現員		役職	氏名	職業	任期	親族等特殊関係者の有無			資格				施設整備又は運営と密接に関連する業務を行う者	理事報酬 (職員と兼務の場合は支給方法)			理事会への出席回数	
	6	6					親族	他の社会福祉法人の役員	その他	社会福祉事業の学識経験者	地域の福祉関係者	施設長	その他		理事報酬・職員給与ともに支給	理事報酬のみ支給	職員給与のみ支給		支給なし
理事			小林美穂	法人職員	20130324 ~ 20150323														
理事			齊藤真弓	医師	20130324 ~ 20150323							○							
理事			菅野真弓	NPO法人職員	20130324 ~ 20150323														
理事			岩永浩一	法人職員	20130324 ~ 20150323														
理事			広本三枝子	家族会代表	20130324 ~ 20150323														
理事			吉田肇	弁護士	20130324 ~ 20150323							○							

監事	定員 現員		氏名	職業	任期	親族等特殊関係者の有無			資格				施設整備又は運営と密接に関連する業務を行う者	監事報酬		理事会への出席回数		
	2	2				親族	他の社会福祉法人の役員	その他	公認会計士、税理士	弁護士	社会等の監査役、経理責任者等	その他		社会福祉事業の学識経験者	地域の福祉関係者		支給あり	支給なし
監事			永田徹	弁護士	20130324 ~ 20150323										○			
監事			高松邦明	会計士	20130324 ~ 20150323										○			

評議員	定員 現員		氏名	職業	任期	親族等特殊関係者の有無			資格							施設整備又は運営と密接に関連する業務を行う者	理事との兼務	職員との兼務	評議員への出席回数
	13	13				親族	他の社会福祉法人の役員	その他	理事の親族	社会福祉事業の学識経験者	地域の福祉関係者	地域の代表者	施設長	利用者の家族の代表	その他				
評議員			小林美穂	法人代表理事	20130324 ~ 20150323														
評議員			齊藤真弓	医師	20130324 ~ 20150323														
評議員			菅野真弓	NPO代表理事	20130324 ~ 20150323														
評議員			岩永浩一	法人職員	20130324 ~ 20150323														
評議員			広本三枝子	家族会会長	20130324 ~ 20150323														
評議員			吉田肇	弁護士	20130324 ~ 20150323														
評議員			丹羽幸子	社会保険労務士	20130324 ~ 20150323														
評議員			小比賀昌子	婦人会副会長	20130324 ~ 20150323														
評議員			酒井佐和子	医療生協理事	20130324 ~ 20150323														
評議員			大槻瑞文	NPO理事	20130324 ~ 20150323														
評議員			岡田美千代	家族会副会長	20140707 ~ 20150323														
評議員			前田俊子	家族会副会長	20140707 ~ 20150323														
評議員			小川尚美	家族会副会長	20140707 ~ 20150323														

施設長	施設名		氏名		就任年月日		法令等に定める資格の有無	
施設長	デーセンター夢飛行		畑 誠		平成16年4月1日		有	
施設長	デーセンターモモの家		小林美穂		平成15年3月1日		有	

職員	常勤専従		常勤兼務		非常勤	
			換算数		換算数	
職員	64		23		8	

理事会	開催年月日		出席者数		書面出席者数		監事出席の有無		決議事項	
理事会	20130513		6		1		有		平成24年度決算	
理事会	20131118		5		1		有		評議員の交代、選任	
理事会	20140707		6		1		有		施設へのリフト設置工事 平成25年度決算 評議員の選任	

評議員会	開催年月日		出席者数		監事出席の有無		決議事項	
評議員会	20130513		10		有		平成24年度決算	
評議員会	20131118		12		有		評議員の交代、選任	
評議員会	20140707		13		有		施設へのリフト設置工事 平成25年度決算 評議員の選任	

監事監査	監査年月日		監査者		監査報告の有無		指摘事項		改善事項	
監事監査	20140607		永田徹		有		適正			
監事監査	20140607		高松邦明		有		適正			

IV 資産管理

平成 26 年3月31日現在

不動産の所有状況	所在地	面積	評価額(千円)	担保提供の状況				所轄庁の承認の有無
				提供年月日	借入額(千円)	借入先	償還期限	
基本財産	土地							
	建物							
運用財産	土地							
	建物							
公益事業用財産	土地							
	建物							
	土地							
	建物							

V その他

平成 26 年4月1日現在

情報公開	定款	役員名簿	評議員名簿	財産目録	事業計画書	事業報告書	役員報酬規程	第三者評価結果	苦情処理結果		
	公表していない	公表していない	公表していない	公表していない	公表していない	公表していない	法人HP	公表していない	公表していない	公表していない	
前々年度の財務諸表	貸借対照表				資金収支計算書				事業活動収支計算書		
	公表していない	公表していない	公表していない	公表していない	法人HP	10~12月	法人HP	10~12月	法人HP	10~12月	
外部監査	平成	年度	平成	年度	平成	年度	平成	年度	平成	年度	
	費用(千円)	費用(千円)	費用(千円)	費用(千円)	費用(千円)	費用(千円)	費用(千円)	費用(千円)	費用(千円)	費用(千円)	
第三者評価	受審施設・事業所名		平成	年度	平成	年度	平成	年度	平成	年度	
			費用(千円)	費用(千円)	費用(千円)	費用(千円)	費用(千円)	費用(千円)	費用(千円)	費用(千円)	
準拠している会計基準	社会福祉法人新会計基準	社会福祉法人旧会計基準	経理規程・準則	指定介護老人福祉施設等会計処理等取扱指導指針	訪問看護会計・経理準則	介護老人保健施設会計・経理準則	授産会計基準	就労会計基準	病院会計準則	企業会計基準	その他
		○									

平成 26 年3月31日現在